

先日は「てがたん」にご参加いただき、ありがとうございました。「てがたん」の観察記録でレポートを作成しましたので、ご覧下さい。次回5月の「てがたん」は5月10日(土)で「命のリレー 鳥の繁殖・虫の幼虫」がテーマです。是非ご参加下さい。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見&打ち合わせは5月3日(土・祝)です。よろしくお願い致します。

4月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→手賀沼遊歩道→けやき広場
- 観察日時/天気 2014年4月12日(土) 10:00~12:00/晴れ
- 参加人数 44名(一般33人、子ども11人)
- 市民スタッフ 12名(石原直子、伊東茂子、大嶽若緒、岡廣志、木村稔、小泉伸夫、須貝基康、染谷迪夫、竹本周平、弘實さと子、松村定雄、湯瀬一栄)
- 鳥博職員 3名(斉藤安行、小田谷嘉弥、染谷実紀)

観察記録 — 4月に観察した生き物リスト —

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：カルガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ/ウ科：カワウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：オオバン/カモメ科：セグロカモメ/タカ科：トビ/キツツキ科：コゲラ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ツグミ/スズメ科：スズメ/アトリ科：カワラヒワ、コイカル/ホオジロ科：アオジ/外来種や家禽：コブハクチョウ、アヒル、ドバト

【両性類】

アマガエル科：ニホンアマガエル

【甲殻類】

テナガエビ科：スジエビ

【昆虫・クモ】

チョウ・がの仲間：クロアゲハ、ナミアゲハ、キアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ルリシジミ、オオミズアオ、イラガ(まゆ)/ハチ・アリ・アブの仲間：ハナアブの仲間/甲虫の仲間：コガタルリハムシ、ナナホシテントウ/カマキリの仲間：ハラビロカマキリ(卵鞘)

【花】

キク科：ハルジオン、チチコグサモドキ、ノゲシ、オニタビラコ、オニノゲシ、セイヨウタンポポ、オオジシバリ/ゴマノハグサ科：タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ、ムラサキサギゴケ、トキワハゼ、カワヂシャ/シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/ムラサキ科：キュウリグサ/カタバミ科：カタバミ/マメ科：カラスノエンドウ、ゲンゲ、ハナズオウ(植栽)/バラ科：ヘビイチゴ、キジムシロ、オオシマザクラ、ソメイヨシノ(栽培品種)、ミクルマガエシ(栽培品種)、ユキヤナギ(植栽)、ヤマブキ(植栽)/アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ、オランダガラシ/アケビ科：アケビ/クスノキ科：クスノキ/ナデシコ科：コハコベ、オランダミミナグサ、ノミノツヅリ/カバノキ科：ハンノキ/ヤナギ科：シダレヤナギ/イネ科：スズメノカタビラ、スズメノテッポウ/イグサ科：スズメノヤリ/ユリ科：チューリップ(植栽)

【その他 植物】

トクサ科：スギナ(ツクシ)

4月の観察アルバム



今回の「てがたん」のテーマは「てがたん 10周年記念」でした。2004年4月にスタートした「てがたん」は、2013年度で10年を迎えました。10年前と今の「てがたん」コースとでは自然にどんな違いがあるのか、お話ししました。

今回は参加者44名と多くの方にご参加いただきました。ありがとうございました。



今月の案内人：小泉 伸夫さん



① 田んぼのあぜから飛び出して来たニホンアマガエル



② 紫色のじゅうたんの正体はムラサキサギゴケ



③ 開けた日当たりの良い湿った場所が好きなベニシジミ



④ 春の代名詞ツクシ（スギナ）穂は孢子葉の集まり



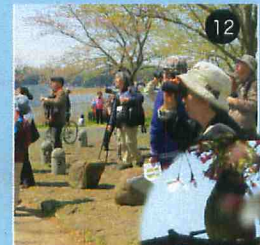
⑤ 杭にとまり羽を乾かしているカワウ



⑪ 「水の館」前のあぜでキジのメスを観察。オスのように派手な羽色ではなく、全身茶色っぽい。



4月てがたんの観察生物とルート



⑫ 観察会をスタートして間もなく、サクラの木にコイカルを発見。コイカル目当てのカメラマンの姿も。



⑥ ほとんど散っていたソメイヨシノ
エドヒガンとオオシマザクラとの種間雑種



⑦ 秋渡って来るのが早く、春渡るのが遅めのコガモ
オス、メスを観察



⑧ シダレヤナギの花
花期は3月上旬から5月まで



⑨ アケビの花
花期は4月から5月
種子は硬く、獣の鋭い歯をすり抜ける



⑩ 羽化間もないオオミズアオ
夜飛ぶガの仲間

10年前「けやき広場」前の水田で観察した

タマシギ (チドリ目タマシギ科) 全長：約23.5 cm

タマシギはオスよりもメスの方が羽色が鮮やかで、一見オスとメスを間違えてしまいそうです。

一妻多夫で繁殖し、巣づくりから子育てまでオスが行います。繁殖期は4~10月で、メスは産卵をすませると、つがいのオスを離れ、別のオスを探して求愛します。

大変用心深く、早朝や夕暮れの薄暗い時間帯に餌をとりまわります。浅い水の中にくちばしを入れて左右にゆすったり、泥の中にくちばしを入れて餌を探します。ユスリカや水生昆虫の幼虫、バッタやコオロギ類、ミミズ、貝類、甲殻類を食べ、イネの種子を食べることもあります。



解説の様子
(木村 稔さん)



オス

メス

タマシギ